

# 愛媛大学における学習支援の 取り組みについて

—大学院生アドバイザーを活用した学習支援—



愛媛大学教育・学生支援機構 教育企画室 大竹奈津子  
otake.natuko.mc@ehime-u.ac.jp

# 発表の流れ

---

1. 愛媛大学の学習支援の概要
2. 初年次科目について
3. 数学リメディアル教育について
4. 学習支援室(スタディ・ヘルプ・デスク)について
5. 今後の課題





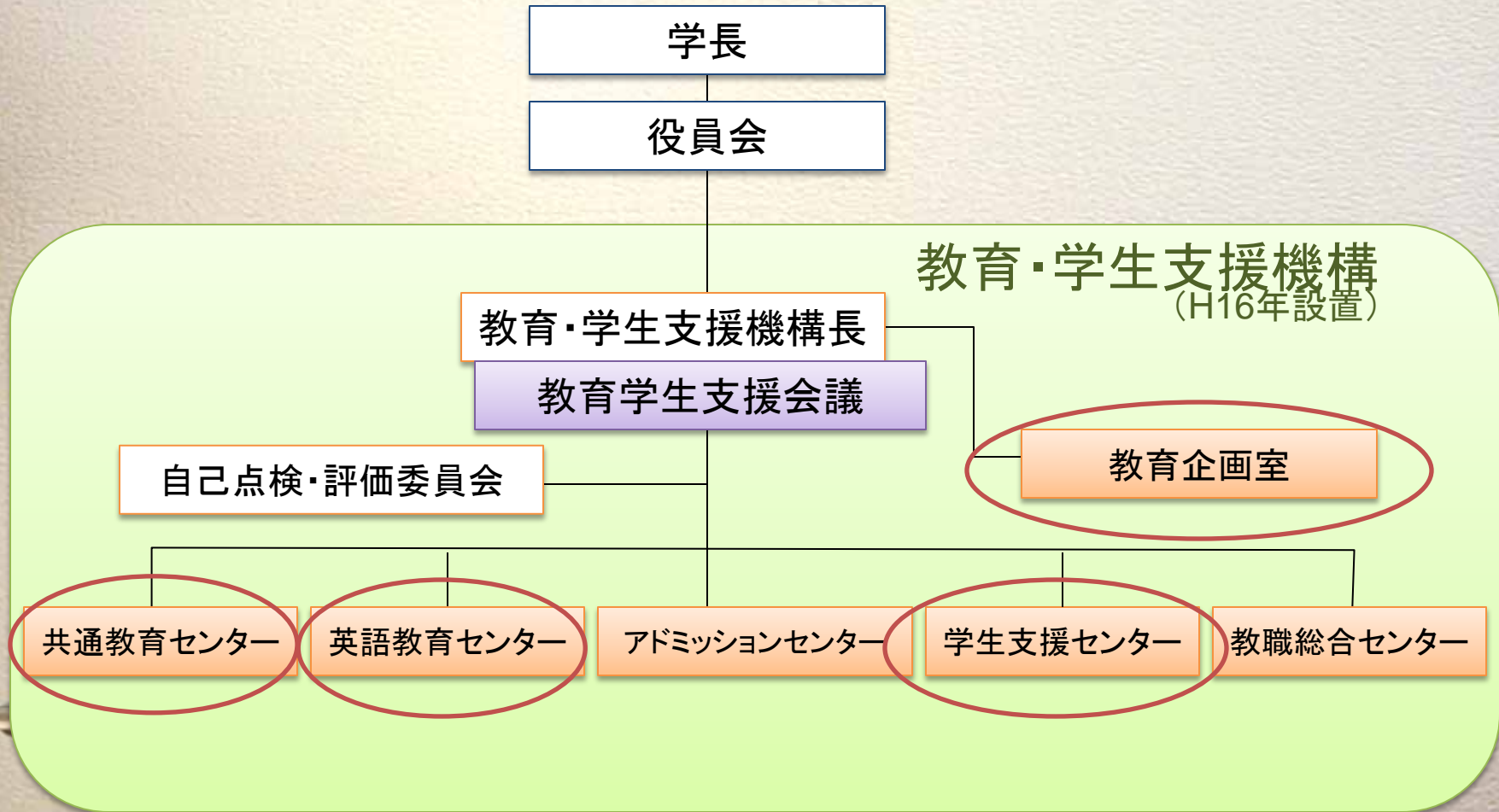
# 愛媛大学における学習支援の概要

## 愛媛大学の教育目標

1	愛媛大学は、学生が豊かな創造性、人間性、社会性を培うとともに、自立した個人として生きていくのに必要な知の運用能力、国際的コミュニケーション能力、論理的判断能力を高める教育を実践する。
2	愛媛大学は、地域・環境・生命に関連する教育に力を注ぎ、地域の現場から課題を発見し解決策を見いだす能力を育成する。
3	大学院においては、人間・社会・自然への深い洞察に基づく総合的判断力と専門分野の高度な学識と技能が身につく教育を実施する。
4	愛媛大学は、学生が入学から卒業・修了まで安心して充実した大学生活を送ることができる学生支援体制を築く。

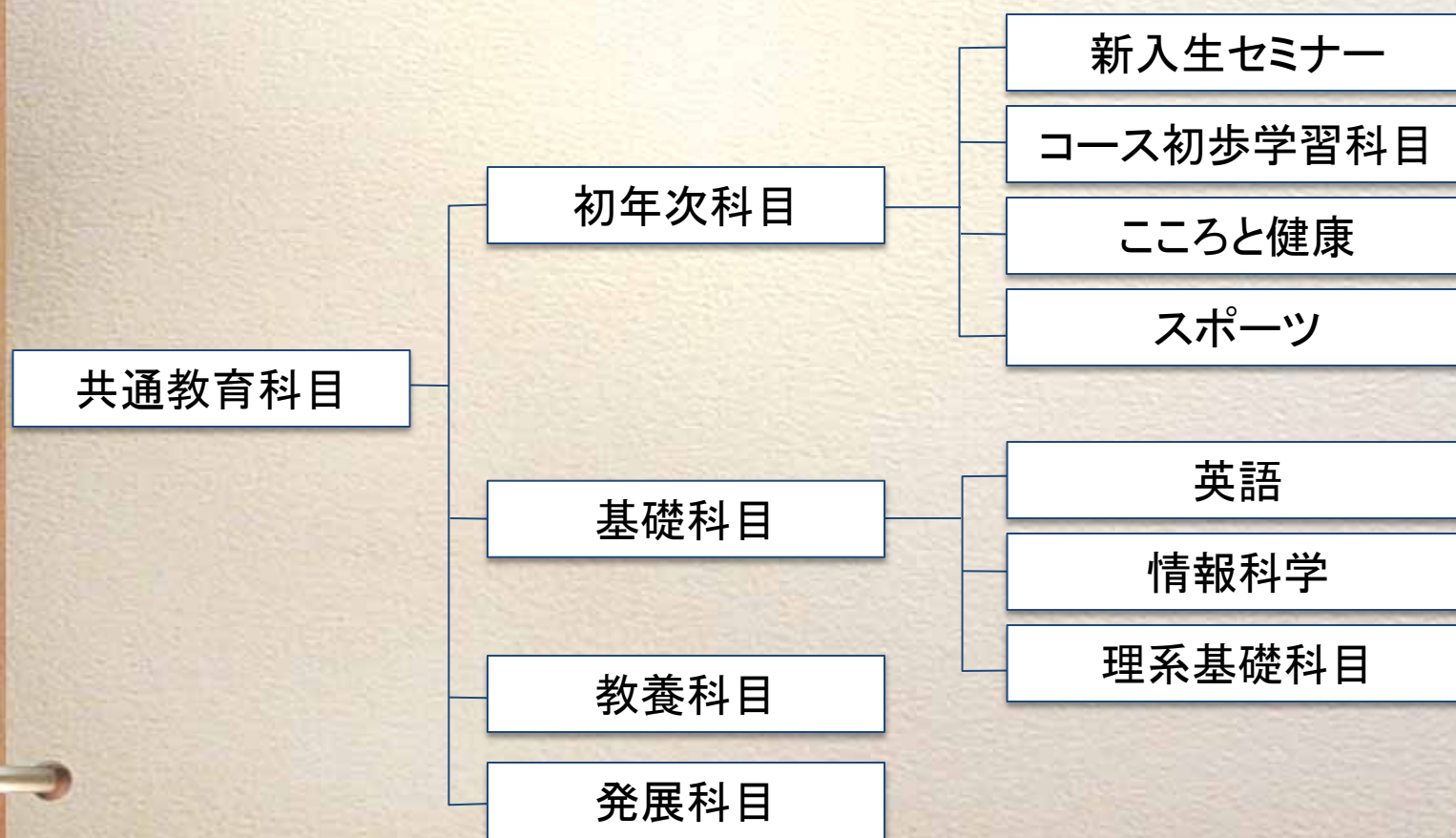


# 愛媛大学における学習支援の概要





# 愛媛大学における初年次教育



大学院生アドバイザーによる学習支援  
(スタディヘルプデスク)



# 初年次科目—新入生セミナー (コース初歩学習科目)

## 【目的】

大学生活において主体的かつ能動的に学ぶために必要な技能(スタディ・スキル)を身につける

## 【内容】

・大学での学び方・ノートの取り方・レポートの書き方・論文の読み方・プレゼンテーションの技法・タイムマネジメント・コミュニケーション・キャリアデザイン・図書館活用術等について

(全15回、必須2単位)

## 【特徴】

- ・『愛媛大学版 大学での学び入門』テキストを新入生全員に配布、各学部で必要に応じて使用
- ・コース初歩学習と連動して開講





# 初年次科目(新生十コース初歩) の学生への効果は

平成20年度実施アンケート結果(回収率:75.7%)

Q. 初年次科目は,あなたが高校生から大学生に変化する上で有用な内容でしたか。

- ①とても有用だった 24.4%
- ②まあ有用だった 59.3%
- ③あまり有用ではなかった 12.8%
- ④全く有用ではなかった 3.1%





# 初年次科目(新入生十コース初歩) の学生への効果は

平成20年度実施アンケート結果(回収率:75.7%)

Q. 初年次科目を受講して,以前に比べて変化した事柄を以下より選んでください。

【友人関係が広がった】41.5%

【手帳をつけるようになった】41.3%

【コミュニケーションの重要性を意識するようになった】40.6%

【いろいろな人がいることを理解するようになった】38.0%





# 初年次科目(新入生十コース初歩) の学生への効果は

平成20年度実施アンケート結果(回収率:75.7%)

Q. [レポート作成方法] 以下の項目のうち、大学に入ってからレポートを作成する際に最も役に立ったものを1つ選んでください。

【新入生セミナーの授業で教わった内容(『愛媛大学版 大学での学び入門』のテキストを含む)】 59.1%

【新入生セミナー以外の授業で教わった内容】 10.6%,

【先輩や同級生からのアドバイス】10.1%,

【大学に入る以前のレポート作成の経験】 7.0%,

【レポートや論文の書き方に関する一般書】5.0%

半数以上の学生が、新入生セミナーの授業で教わった内容が、レポート作成の際、最も役立ったと回答している。





# 初年次教育(新入生十コース初歩) の学生への効果は

平成20年度実施アンケート結果(回収率:75.7%)

Q[行動・意識の変化]に関する自由記述

「レポートの書き方がわかった」「自分の行動に責任を持つようになった」「授業の要点をおさえることができるようになった」「大学生としての自覚が持てた」等の意見が多く見られた。

Q[全体での授業内容]の良かった点に関する自由記述

「レポートの書き方やプレゼンテーションの授業がよかった」「大学生活についての知識が得られた」「いろいろな人の意見が聞ける」などの意見が得られた。

Q[全体での授業内容]の改善点に関する自由記述

「私語が多い」「人数が多すぎて質問しにくかった」「先生によって内容が異なる」「コース説明は希望者のみの受講でよいのではないか」「課題が多い」「レポートの書き方をもっと早く教えてほしかった」等の意見が多かった。





# 初年次科目の今後の課題

- ・1年生の段階で論文等を読む機会がなく、学んだことをすぐに活用できない
  - 段階的な教育が必要
- ・大人数講義による弊害
  - 講義形式ではなくアクティブ・ラーニングをもっと活用した形式への変更
- ・学部学科によってコース初歩学習の内容の統一性がない
  - モデルの提示

# 数学のリメディアル教育—概要

微積分学関連の共通教育理系基礎科目

入学前:「数学力テスト」(プレースメントテスト)

前学期:「初級微積分」(共通教育主題科目2単位)

(以下、正規科目という)に対する補完教育

夏休み:正規科目の「夏期補習授業＋再試験」

(工、農、教育学部)





# 数学のリメディアル教育—背景

## ①正規科目の再履修の難しさ

→再履修スタート時は入学時より学力(計算力)低下の傾向

## ②正規科目と不登校との相関

共通教育センターが特定科目で出席チェック

→電話連絡・早期発見→学生支援センターへ報告

→正規科目不合格→関連科目不合格→留年・不登校

正規科目は極力初年次に単位を修得させる



# 数学のリメディアル教育 —数学カテスト

- 入学式前の履修ガイダンス時に実施
- 60分25問、100点満点
- 高校数学II・IIIの初等関数・極限・微積分
- 教科書例題レベルの求値問題
- 試験用コードの採用(個人情報・メンタリティ)
- 試験監督12名(補助職員11名)、採点委員23名  
はいずれも数学教員とは限らない



# 数学のリメディアル教育—授業方針

## 到達目標

- ・初等関数についての基本事項を理解する。
- ・極限の考え方や微分・積分の基礎を身につける。  
(高校数学Ⅱ、Ⅲの広範な内容を14回の授業でカバー)

## 重要な留意点(裏の目標)

- ・学習のモチベーションを高め、維持する。
- ・授業時間外学習の習慣をつける。



# 数学のリメディアル教育—授業方法

## 基礎事項のまとめ

- 聞かずに演習課題に取り組んでもよい。

## 豊富な演習課題(5クラス共通)

- 授業中にできたところまでを提出
- 残りは提出期限までに提出
- 授業時間外学習時間を記入

## 詳細な解答例と、一人一人へコメントを添えて、

- 毎週レポート返却。
- 得点(特に弱点・注意点の指摘)
- 学習時間、及びこれまでの取り組み状況



# 数学のリメディアル教育—効果

## 【授業評価アンケートの自由記述欄】

- ・結果だけでなく過程も評価してくれるのでとてもやる気がおきました。
- ・生徒一人一人にアドバイスをしてくれるので生徒側としてはとてもうれしい。
- ・答案の返却から、授業の内容まで、とても丁寧で解り易かった。
- ・先生の指導が分かりやすく、課題も多かったため自分の力がついたと強く感じる事ができた。

# 数学のリメディアル教育—効果

「モチベーションの維持」と「授業時間外学習の習慣化」の成果

- ・「初級微積分」のみならず、正規科目においても効果あり  
特に、数Ⅲ既習者は学力が安定した。
- ・授業時間外学習時間は毎週平均2～4時間。
- ・非常に伸びたケースもあった。

授業中は1問も解かず、自宅で10時間学習。

毎回100点に迫る(または獲得する)ケース。

正規科目で「秀」をとったケース。

数Ⅲ未履修だったが、重要なステップを克服





# 数学のリメディアル教育—工夫

- ・第1回授業において、担当TAが挨拶・アドバイスし、スタディ・ヘルプ・デスク(SHD)スタッフがSHDを紹介。

コミュニケーションの機会設定。

中間期の授業において、担当TAが答案の書き方についてアドバイス。

- ・本学教員+TAとのミーティング:学期前、中期、学期後。
- ・教員間の連携:毎週の授業前後の情報交換。



# 数学のリメディアル教育 —今後の課題

---

- 難易度
- 補完教育を受けられず単位を落とした学生への対応
- 担当教員間の連携





# スタディヘルプデスクのミッション

- 学生の**学力の低下**や**多様な学習のニーズ**に応える。
- 勉強がわからなくなり**退学する学生を減らす**。
- 学生の声をひろい**教員にフィードバック**することにより、  
学生の声を教育改善に活かす。



# スタディヘルプデスクの活動内容

## ■ 教科学習支援

- 英語・数学・物理・科学・生物などの基礎科目の学習支援
- スタディスキルの学習支援(新入生セミナー)
- 学生生活の相談, 先輩としての助言

## ■ 学習スタイルコンサルテーション

## ■ 学生の声を大学へ伝える

## ■ 自習スペースの提供





# 学習支援の様子



構成メンバー：大学院生 14名

(理工学研究科10名、農学研究科1名、法文学研究科3名)





# 学習支援の様子

## スタディ・ヘルプ・デスク 教科&担当アドバイザー (4月)

時間帯	月	火	水	木	金
第3時限 12:50— 14:20	数学 (A、B)	数学 (E) 物理・数学 (C、F)	化学 (H) 中国語・レポー ト作成 (D)	数学 (B、I)	数学 (B) 物理・数学 (F、K) 生物 (L)
第4時限 14:40— 16:10	数学 (A、B) 物理・数学 (C)	数学 (A、E) 物理・数学 (C) 英語・レポート 作成 (G)	数学 (I) 化学 (H) 中国語・レポー ト作成 (D) レポート作成・ 人文社会科学・ 英語 (J)	数学 (I) 物理・数学 (C)	数学 (B) 物理・数学 (F、K) 生物 (L)
第5時限 16:20—	数学 (A、B) 中国語・レポー ト作成 (D)	数学 (A、B) 物理・数学 (C) 英語・レポート 作成 (G)	数学 (I) 物理・数学 (F)	数学 (I) 物理・数学 (木元) レポート作成・ 人文社会科学・	物理・数学 (F、K) 中国語・レポー ト作成 (D)



# 学生の声を教育改善につなげるしくみ



相談に来る  
学生

相談を通じて、不満や改善要望等  
他では集められない学生の声を収集

SHD

教育・学生支援機構と協力し  
レポート等で公開

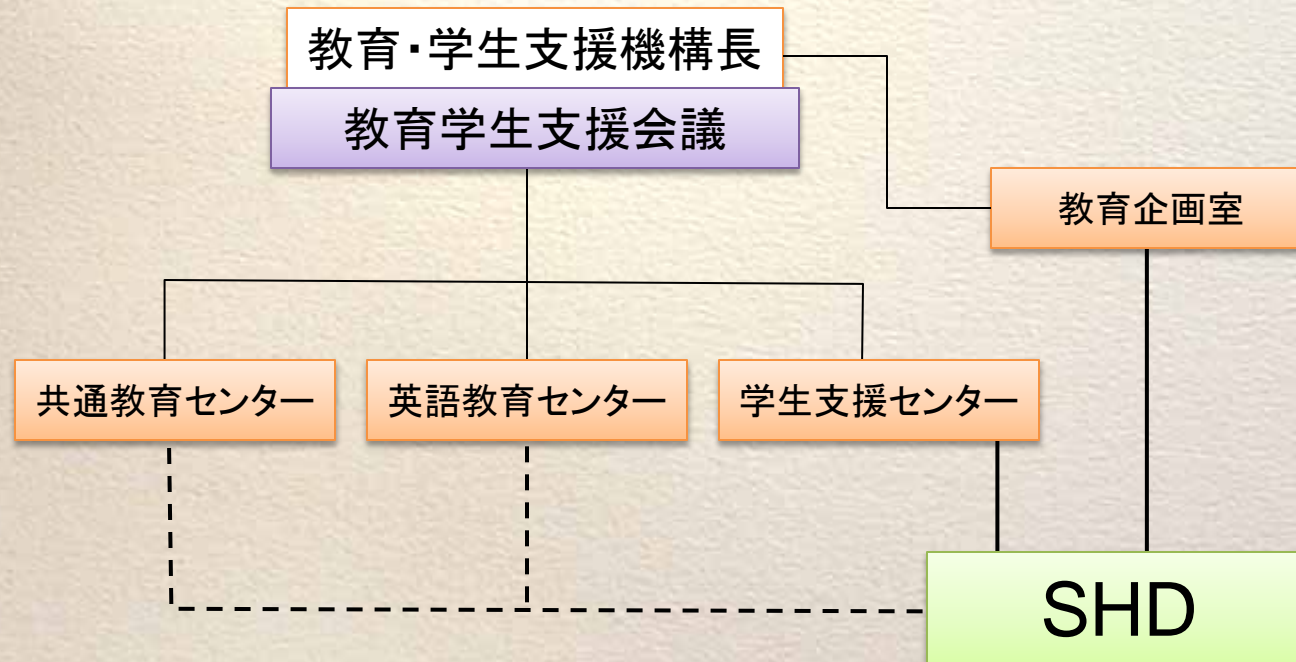
教員



授業に反映あるいは制度  
を改善してもらう



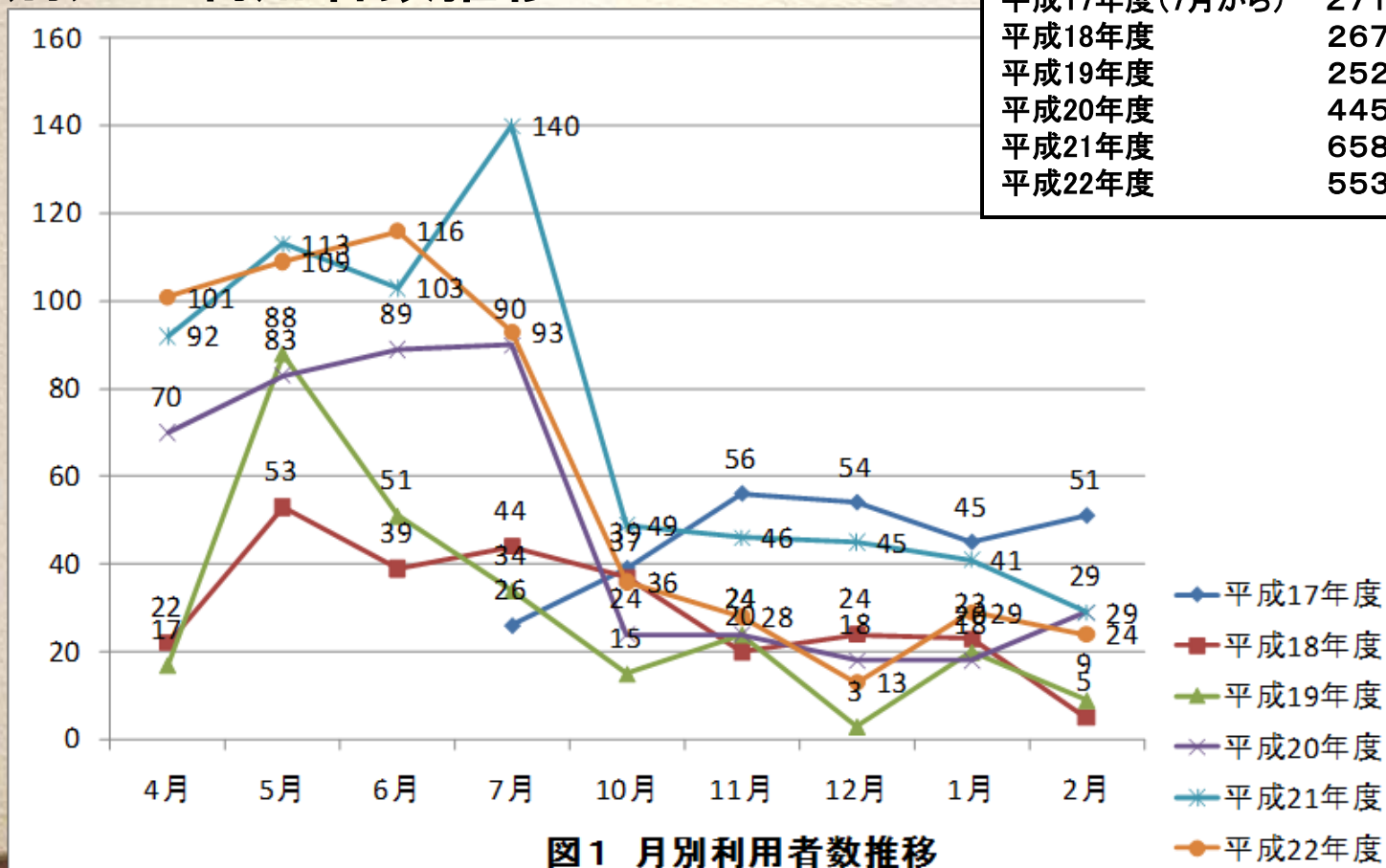
# SHDの関係組織





# 利用状況

## ■月別延べ利用者数推移



### <年度別利用者>

平成17年度(7月から)	271名
平成18年度	267名
平成19年度	252名
平成20年度	445名
平成21年度	658名
平成22年度	553名

図1 月別利用者数推移

# 利用状況

## ■学部別利用件数(2011年度)

## ■学年別利用件数(2011年度)

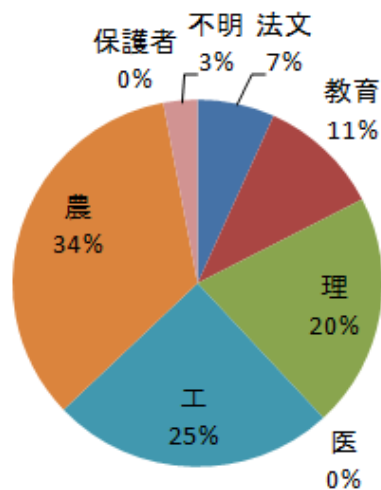


図3 所属分布(全体)

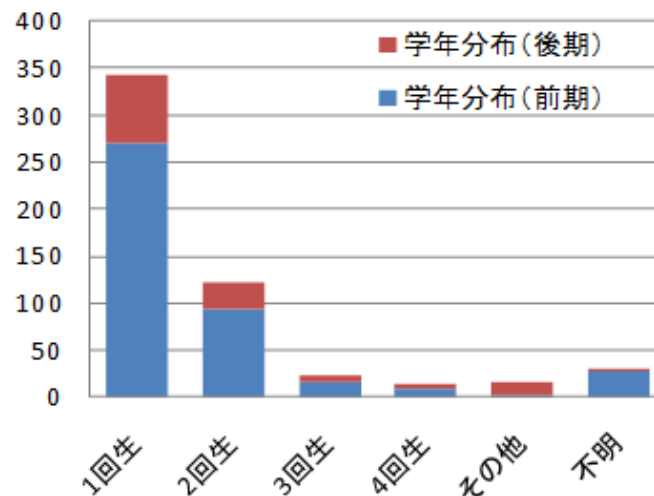


図4 学年分布



# 利用状況

## ■利用目的別(2011年度)

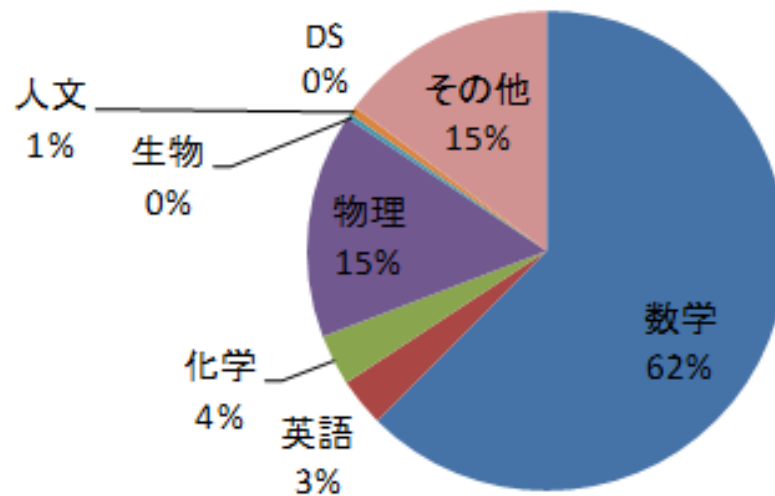


図2 相談科目分布(全体)

# 大学院生による支援の効果

- 教員もアドバイザーを担当したが、教員がいる時間には学生がほとんど訪れなかった。学生は確実にスケジュール表を見て選んでやってくる。

## 大学院生は教員が提供し得ないサービスを提供しうる。

- 学生より年齢が少し上で、同じ経験をしてきている大学院生は、教員や友人とは違った視点から助言できる点が良いのではないか。
- 勉強を教えるだけでなく、学び方を教え、学生の学習意欲を高めている。



# 利用した学生の変化

- 生活が崩れ基礎力が身についていない学生が定期的に通うようになり、**継続的に勉強する**ようになった。
- アドバイザーの目を見て話せなかった学生が、**目を見て話せる**ようになった。
- 「恥ずかしくて人にきけない」（あまりにも基礎的なことがわかっていなかった）という学生が**教員のところに質問に行ける**ようになった。
- 「ここに来た人同士で知り合える。」今まで一人で勉強していた学生が**勉強仲間**を作った。
- (レポートが書けなかった学生にアドバイスしたら)「なんとか書けそうです。」

# 成功の要因

## 学生の視点を大切にした戦略と運営

- 大学院生の起用：高い意欲・豊かな人間性
- 大学院生による主体的な運営
- OJTとOff-JTによる能力開発
- 空間づくりの工夫
- 学生への広報活動の工夫
- 定期ミーティングでの改善活動

学生が欲しいサービスは学生が最もよく知っている。



# スタッフ研修会の開催

- OJT・研修会・定期ミーティングにより、教育と学生支援のスキルを磨いている。
- 大学院生は教師を志望する者もあり、業務と研修に意欲的に取り組んでいる。



「学習指導の基本」についての研修



# 空間づくりの工夫

学生に親しみを持って  
もらうために、ロゴ  
マークを作成・掲示



来談者のプライバシーを考  
慮し、中が見えないように  
工夫

外との壁を感じないように、  
ガラス張り仕様



# 空間づくりの工夫

アドバイザーのフロ  
フィールを掲示



学習に関する参考書な  
どを閲覧可能

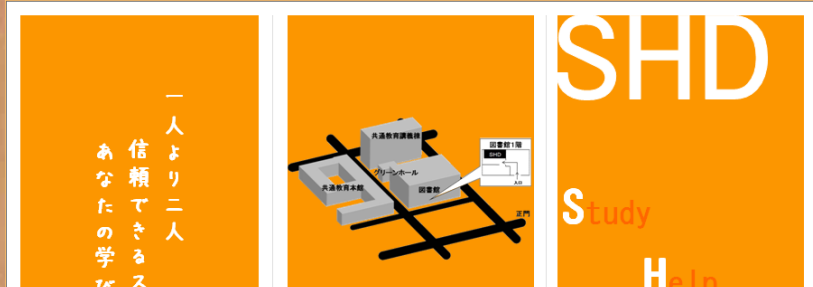
学びに関する  
パンフレット類





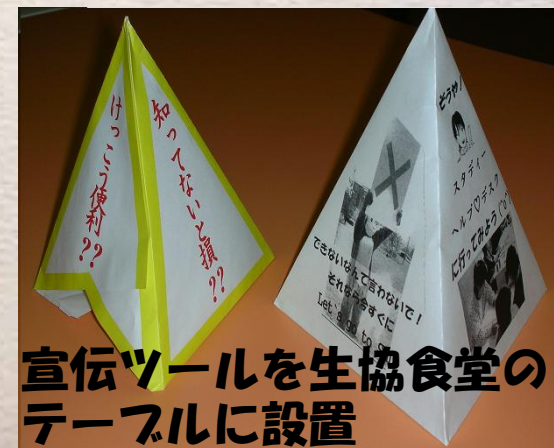
# 広報活動の工夫

学生の心に届く宣伝  
アドバイザーの個性と手作り感で、親しみやすさをアピール



パンフレット

一人でも、仲間とも気軽にSHDを活用してください。



宣伝ツールを生協食堂の  
テーブルに設置





# 相談記録の管理

- 相談内容を記録し、事例検討やサービスの改善に役立てている。
- 学生の相談内容やプライバシーが他に漏れることがないように厳重に管理している。

## 相談記録シート

SHD相談記録シート(例)

<相談日時> 18年 ○月 ○日(○) □:□ ~ △:△	<学部> 理	<学年> 1	<名前> 女 山内
<相談内容(概要)> 学部一般・英語・数学・ <b>化学</b> ・生物学 その他(大学での学部について)			<担当者> 山内
<相談内容(具体的に)> 数学科の授業で習う化学の内容について、高校で化学を履修していなかったため、理解が難しいとのことでした。 内容は、大学の有機化学の電子軌道についての質問。			
<相談に対する対応> 最初に、自分の方で文献調べ、学習したが疑問を解消できませんでした。結果、来談者が1年生ということで、まだ図書館の使い方について不慣れで、どこに参考になる文献があるか、わからないとのことでした。 行動としては、今後の自学自習を促すために、図書館を案内しどこに参考になる文献があるのか、レクチャーしました。また、こういった場合に陥りやすい傾向として文献の調べ方は分かるけれど、どの文献に相談されているのか分からないということが考えられます。そこで、キーワードを見つけて出し、索引を用いた調べ方の視察をしました。 その他、問題に対して、適切な文献を一緒に探し、SHD roomに持ち帰る質問に対する回答を行いました。			
<備考: 大学や授業への要望・不満など> なし。			
確認印			

# 今後の課題

- 学生の短期的なニーズの充足と学生の成長・自発性の促進をいかにして両立させるか。
- アドバイザーのスキルの向上
  - ⇒現在、研修会の充実を図っている。
- 優秀な大学院生アドバイザーの確保
- 本当にSHDが必要な学生が来室しているか？